

学習日誌

4月19日(金)	講 師	
出席者数	30名	記録者 7年2班 砂川戦次郎
講座名	文学講座3 文学散歩 <樋口一葉 ゆかりの地を訪ねて>	
プログラム担当者	文学講座運営グループ 大西恵子 他幹事10名	
時間・場所	2024年4月19日(金)、東京都文京区本郷・台東区三ノ輪 界隈	

【学習内容】

令和3年度の文学講座で取り上げた樋口一葉「たけくらべ」の世界で、講座とその作家にちなんだ場所を訪ねてフィールドワークする計画でしたが、コロナ禍で延期。しかし最近は落ち着いてきたことにより今回実現しました。一葉は文京区本郷に3度、台東区三ノ輪に1度と引っ越しを繰り返しています。今回は、その場所をたどりました。

- ・小田急線相模大野集合：8時45分 新宿→新宿西口（大江戸線）→春日（文京区）
- ・旧伊勢屋質屋跡：生活が苦しい一葉が頻繁に通っていたといわれる菊坂にある質屋跡。
- ・桜木の宿：最初に本郷に住んだのは東大赤門前の家で法真寺の隣で自ら「桜木の宿」とよんでいた。最も裕福な時代でした。
- ・一葉旧居跡（写真）：一葉が使っていたと言われる井戸や当時の風情を残した建物が今も残っていました。狭い路地なので住民に迷惑が掛からぬよう2班ごとに分かれて見学。
- ・昼食 11時30分～東大の学食を利用。混雑を避けるためオープンと同時に入り、昼食を済ませた。学食なのでリーズナブルなので驚き。校内の新緑と雰囲気を楽しみ、赤門前で集合写真を撮る。



台東区三ノ輪に移動（商売で生活を助けるため台東区三ノ輪に移り、駄菓子屋・雑貨屋を始めた。商売はうまくいかず9ヶ月程で店を閉める。）

- ・千束稻荷神社：たけくらべで、表町組の美登利たちと、横丁組の長吉たち子供同士がケンカするシーンのモデルになった神社です。一葉の美しい胸像があります。
- ・鷺（おおとり）神社：「たけくらべ」のラスト近くには鷺神社酉の市が書かれています。
- ・一葉記念館：今回の目玉のひとつ、一葉が母と妹と3人で暮らし、代表作「たけくらべ」の舞台となった台東区竜泉の有志による顕彰活動の集大成として昭和36年に開館。自筆の書簡や草稿をはじめ、ゆかりの資料が展示されています。入場料200円。見学後解散。

【感想】

当日は快晴で最適なフィールドワーク日和。参加人数は30名、迷子にならないよう5班に分け班長の指示で行動。事前に現地の下見に2度・3度と重ねた幹事による都内のスムーズな移動。また事前の打ち合わせで地下鉄から地下鉄の移動やトイレ場所など確認と検討も功を奏した。事故もなく時間通りに見学できました。24歳の若さで世を去りながら文学史上に残る多くの作品を生んだ一葉への理解を深める一日でした。